

# 会 議 報 告 書

1 会議名	令和2年度第3回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	令和3年3月4日（木） 午後4時から4時45分まで	3 場 所	市役所本庁舎5階第3会議室
4 出席者	<b>【委 員】</b> 12名（別紙名簿のとおり） <b>【事務局】</b> 5名（教育長、教育部長、子育て支援課長、課長補佐、育児支援係長） <b>【傍聴者】</b> 1名（報道機関）		
<p>1 開 会 （子育て支援課長）</p> <p>2 あいさつ（教育長、今西会長）</p> <p>○司会 委員14名中12名の出席、過半数の出席があり本会議が成立すること報告。</p> <p>3 議 事</p> <p style="margin-left: 20px;">北上市認可保育施設の利用定員について【資料1】</p> <p style="margin-left: 20px;"><b>【説明の要旨】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の利用定員、利用児童数は資料のとおり</li> <li>・令和3年度の報告・協議済みの定員変更等、資料のとおり</li> <li>・本日協議する利用定員の変更は事業所内保育所ひたかみ保育所の地域枠3人増、従業員枠8人減。現在の同保育所の入所状況説明。利用定員45名に対し4月入所が37名（うち市外2名）。現在41名。令和3年度入所内定は現在28名。3次調整は今月これから行う。</li> <li>・認可外保育所から小規模保育事業所への移行する大堤保育所について、前回定員9名で協議したが、1名減の8名に変更の見通し。</li> <li>・子ども・子育て支援事業計画の事業計画数と現在の利用定員の比較について資料とおりに説明。令和3年度4月見込では1号認定-25人、2号認定-65人3人、3号認定は計画に比べて30人多くなる見通し。</li> <li>・資料1の裏面は議事ではなく情報提供のため、その他で裏面説明とする。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;"><b>【質疑、意見】</b></p> <p style="margin-left: 40px;">なし</p> <p>4 その他</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 資料1の裏面について</p> <p style="margin-left: 40px;">令和3年度の利用定員の見込を掲載。</p> <p style="margin-left: 40px;">令和4年度以降来年度当初予算に盛り込んだ内容、3園の施設整備について、資料のとおり説明。社会福祉法人虹色の輪、小規模移転新築、令和5年度立花保育園 認定こども園として移転新築、令和6年度学校法人二戸学園が認定こども園開所計画。あくまでも計画段階の定員につき、情報提供となる。</p>			

## (2) 組織再編

子育て支援課が来年度から教育委員会を離れ健康こども部に変更。

保健・子育て支援複合施設について情報提供。

### 【質疑】

・家庭に問題のある不登校にかかわっているが、これまでどおり子育て支援課と教育委員会は密接にかかわることでよいか。

⇒これまでどおり同じように対応する。

・今朝の新聞で新たに保育園できることを知り、少子化の中、保育士不足の課題もあり、現実、保育士募集したが応募がなかった。市でもいろいろ取り組んでいるが、保育士不足で園児も分散され定員減らさないといけないか等不安を感じた。

⇒一昨日保育TOURとして保育士養成校の学生に市内の保育施設見学を実施。

・北上にある保育士養成機関として保育士目指す学生数を確保し、地元に残す使命があると思っている。

・保育士養成校として、養成数増と地元に残すこと。

・保育士目指す学生が少ない。以前に比べると関東方面に行く学生減っている。地元志向強くなっており養成数増と地元に残すことをやっていきたい。

⇒北上市は小規模保育事業所が多く特殊な状況。以前はとにかく待機児童を減らす、保育の枠を増やすのを第一目標にここ5・6年やってきた。今年度春の待機児童は1だった。改善してきている。ただ、子ども生まれて預けて職場に戻ろうとすると0歳児を預かってくれるところがないのも事実。小規模保育が貢献していただいているのも事実。すぐに会社に復帰したいが叶えられない現実はあるが、少子化とあわせて考えていかなければならない。

公立・私立の役割について、少子化において市内全体の飽和状態をどこで解消していくのかという時の公立のスタンスを当然考えていかなければならない課題と認識している。

・保育士になりたい子の動機付けが中学校の職場体験にウエイトがある。ぜひ現場で中学生の受け入れやhoKko でボランティア等中・高生が子どもと触れ合える機会を作り保育に向くような生徒を増やしていただきたい。

### ○教育長総括

中学校での保育実習は行っており、継続的に進めたい。

待機児童0を目指しながら動いてきたが、そろそろ利用定員のバランスを考える時期に来ている。今の中学生が市内800人台、小学4年あたりから700人台、今年度の出生数が500人台。今の保育所、認定こども園の数について、学年の人数の推移をみながら検討していくのも会議の課題になってくる。来年度以降転入等も考えられるが推移を見極める。

組織再編については教育部と健康こども部の連携は来年度慎重に進める。